

2025年度 町田市立本町田ひなた小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和6年3月31日

学校教育目標 「主体的に探究し、創造する子ども」 ○魅せる 全員の姿【自己理解・自己管理能力】 ○語る 仲間【人間関係形成・社会形成能力】 ○繋ぐ 心の絆【課題対応能力】【キャリアプランニング】 ○目指す学校像……①一人一人の子供の主体性と自律性を活かす学校 ②一人一人の子供の自己有用感と自己肯定感を高める学校 ○目指す児童・生徒像……①協働して課題を主体的・対話的に解決し、新たな学びに活用していく子供 ②自ら活動を創造し、生活を充実させる実践力のある子供 ③学年を超えて協働的活動を充実させていく創造力のある子供 ○目指す教師像……①主体的・対話的で深い学びの実現を協働的に目指す教師 ②教科等横断的な授業を創造する教師 ③学び合う教育集団としての教師	学校経営の重点 町田市教育プラン24-28に基づき、異学年交流をはじめとした児童の自治的で主体的な活動及びウェルビーイングを目指した授業を推進し、授業改革研修において各児童の進度に即した教科等横断的な単元の開発と「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進を実施する。また、コミュニティスクールとして重点目標の成果と課題 縦割り班活動やペア学年での活動を活発に行ったことで、すべての児童が居場所を学校生活の中に見出し、日々の生活の中で自己有用感を高めている。その姿から、統合校として心配されていた児童の不安は払拭されたと考えている。ペア学年の活動において、合同体育や各教科・領域と関連付けた活動が見られた。今後は、異学年交流の中に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り込んだ教育活動を推進していくことを目指す。
---	---

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価									
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域・短期経営目標	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画・実施し、児童の学びを豊かにする。 学校ホームページや学校行事など、積極的に情報発信と公開に努め、教育活動への理解を広める。	年間指導計画で計画した活動の90%以上を実施	4	A	学校評価アンケート肯定的評価80%以上	79.2	B	おおむね目標を達成したと考えると、保護者・地域に浸透していないように感じる。今後とも、学校運営協議会との話し合いの内容や活動内容などを積極的に発信していく。		・TETORU配信など、情報発信に努めていた。 ・保護者の関心をもっと高めていきたい。 ・教師は、指導も子供との関係においてもよくやっている。										
				年間指導計画で計画した活動の80%以上を実施			学校評価アンケート肯定的評価70%以上															
				年間指導計画で計画した活動の70%以上を実施			学校評価アンケート肯定的評価55%以上															
				年間指導計画で計画した活動の70%未満の実施			学校評価アンケート肯定的評価55%未満															
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改善改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、児童が聴き合う授業の確立を目指す。	つまずきのある児童から「なぜ?」と聴く授業を目指し、共に学び合い、課題を解決していく聴き合う授業の確立を目指す。	90%以上の授業で意識して指導	3.95	A	80%以上の児童が変容	90.0	A	学習に向かう姿勢や探究心などについてきている。学力テストなどの学校ではまだ表れていないが、今後とも「日々の学び」と「実生活や社会とのつながり」を、今後とも「日々の学び」と「実生活や社会とのつながり」を意識させる授業を推進していく。		・授業中の姿に、集中している子供の姿が見られる。 ・「実生活や社会とのつながり」が、今後とも「日々の学び」と「実生活や社会とのつながり」を意識させる授業を推進していく。										
			対話をはじめ、自らの考えを多様な方法で表現させ、協働的な学びの授業を展開する。	90%以上の授業で意識して指導			70%以上の児童が変容															
			対話をはじめ、自らの考えを多様な方法で表現させ、協働的な学びの授業を展開する。	90%以上の授業で実施			80%以上の児童が変容															
			対話をはじめ、自らの考えを多様な方法で表現させ、協働的な学びの授業を展開する。	80%以上の授業で実施			70%以上の児童が変容															
			対話をはじめ、自らの考えを多様な方法で表現させ、協働的な学びの授業を展開する。	70%以上の授業で実施			55%以上の児童が変容															
			対話をはじめ、自らの考えを多様な方法で表現させ、協働的な学びの授業を展開する。	70%未満の授業で実施			55%未満の児童が変容															
			教科・領域を超えて知識をつなげ、日々の生活をよりよくしていく態度を育成する。	年間6回以上の授業場面で実施			80%以上の児童の意識が変容															
			教科・領域を超えて知識をつなげ、日々の生活をよりよくしていく態度を育成する。	年間5回以上の授業場面で実施			70%以上の児童の意識が変容															
			教科・領域を超えて知識をつなげ、日々の生活をよりよくしていく態度を育成する。	年間4回以上の授業場面で実施			55%以上の児童の意識が変容															
			教科・領域を超えて知識をつなげ、日々の生活をよりよくしていく態度を育成する。	年間4回未満の授業場面で実施			55%未満の児童の意識が変容															
			豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に関心をもつ意識・態度を育てる。			道徳の授業を中心に、生命を大切にすることや他人を思いやる心、規範意識など道徳の実践力をはぐくむ。						人権を相互に尊重する指導を行い、いじめを許さない態度を育成していく。	人権を尊重する指導を週に1回実施する。	4	A	学校評価アンケート肯定的評価90%以上	60.6	C	いじめ防止の指導について肯定的評価が60.6%であったが、「わからない」の回答が18.2%であった。慎重な対応を要することなので、周知することが少ないと捉えられている。この数値を肯定的と捉えれば、78.8%となる。		・スマホ関連の問題は、解決が難しい。 ・「まともにおもて、隠れてやる子供が多い。中には、堂々と出している子供もいる。 ・ネットマナーについては、学校と家庭連携し、同様の指導を両者に児童に行っていくようにする。
													人権を尊重する指導を月に1回実施する。	学校評価アンケート肯定的評価70%以上								
人権を尊重する指導を学期に1回実施する。	学校評価アンケート肯定的評価55%以上																					
人権を尊重する指導を学期に1回実施する。	学校評価アンケート肯定的評価55%未満																					
道徳の授業を要し、道徳の実践力を育成するとともに、実践を称賛する場面を設ける。	週に1回以上、称賛の場を設ける	学校評価アンケート肯定的評価90%以上																				
道徳の授業を要し、道徳の実践力を育成するとともに、実践を称賛する場面を設ける。	週に1回以上、称賛の場を設ける	学校評価アンケート肯定的評価70%以上																				
道徳の授業を要し、道徳の実践力を育成するとともに、実践を称賛する場面を設ける。	学期に1回以上、称賛の場を設ける	学校評価アンケート肯定的評価55%未満																				
異学年交流活動、委員会活動、係活動など、児童の自治的な活動を推進する。	年間10回以上の実施	児童の満足度80%以上																				
異学年交流活動、委員会活動、係活動など、児童の自治的な活動を推進する。	年間9回以上の実施	児童の満足度70%以上																				
異学年交流活動、委員会活動、係活動など、児童の自治的な活動を推進する。	年間8回以上の実施	児童の満足度55%以上																				
異学年交流活動、委員会活動、係活動など、児童の自治的な活動を推進する。	年間8回未満の実施	児童の満足度55%未満																				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせる。丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付けさせる安全指導・安全教育を充実させる。	運動の日常化と健康教育の充実を図り、基礎体力の向上と望ましい生活習慣の定着を図る。			体育科授業の充実をはじめ、外遊びの奨励など、体力向上活動を推進する。	雨天時以外、90%以上の指導場面で外遊びを奨励する		4	A	学校評価アンケート肯定的評価80%以上	71.9	B	体力向上については、校内ではよく体を動かしているが、家庭に落ちつきと静かな傾向が強くみられる。若い子やテレビゲームなどの影響が考えられる。基本的な生活習慣においては、児童全体の生活習慣が5分以上、早まった。家庭への啓発を含め、今後とも続けていきたい。				・登校時刻が、全体的に5分くらい早くなった。 ・自転車専用通行帯があるが、守っている自転車は少なく歩道を走っている。子供をすり抜けて走る自転車もいて、気になっている。					
			雨天時以外、80%以上の指導場面で外遊びを奨励する	学校評価アンケート肯定的評価70%以上																		
			雨天時以外、70%以上の指導場面で外遊びを奨励する	学校評価アンケート肯定的評価55%以上																		
			雨天時以外、70%未満の指導場面で外遊びを奨励する	学校評価アンケート肯定的評価55%未満																		
			望ましい生活リズムの定着を家庭と連携して図る。	年間10回以上家庭向けに啓発文書を発行	80%以上の児童が望ましい生活習慣を身に付ける																	
			望ましい生活リズムの定着を家庭と連携して図る。	年間9回以上家庭向けに啓発文書を発行	70%以上の児童が望ましい生活習慣を身に付ける																	
			望ましい生活リズムの定着を家庭と連携して図る。	年間8回以上家庭向けに啓発文書を発行	55%以上の児童が望ましい生活習慣を身に付ける																	
			望ましい生活リズムの定着を家庭と連携して図る。	年間7回以上家庭向けに啓発文書を発行	55%未満の児童が望ましい生活習慣を身に付ける																	
			特別支援学級児童との交流を推進し、共生の態度を育成する。	全学級で交流を実施	児童の満足度80%以上																	
			特別支援学級児童との交流を推進し、共生の態度を育成する。	90%以上の学級で交流を実施	児童の満足度70%以上																	
			特別支援学級児童との交流を推進し、共生の態度を育成する。	80%以上の学級で交流を実施	児童の満足度55%以上																	
			特別支援学級児童との交流を推進し、共生の態度を育成する。	70%以上の学級で交流を実施	児童の満足度55%未満																	
その他			生活指導夕会において問題や課題を共有し、解決を図るとともに、必要に応じて専門機関とも連携する。	必要情報の90%以上を共有	4	A	児童の満足度80%以上	90.4	A													
			必要情報の80%以上を共有	児童の満足度70%以上																		
			必要情報の70%以上を共有	児童の満足度55%以上																		
			必要情報の70%未満を共有	児童の満足度55%未満																		

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	
取組指標平均 3.5以上	⇒ 評価A
取組指標平均 3以上3.5未満	⇒ 評価B
取組指標平均 2以上3未満	⇒ 評価C
取組指標平均 2未満	⇒ 評価D

成果指標評価基準	
成果指標平均 80%以上	⇒ 評価A
成果指標平均 70%以上	⇒ 評価B
成果指標平均 55%以上	⇒ 評価C
成果指標平均 55%未満	⇒ 評価D

学校関係者評価の評価基準例	
A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる	
B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい	
C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要	
D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善	

※ 学校独自の設定する場合は、枠内を修正明記してください。
※ 学校からの十分な説明のもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。